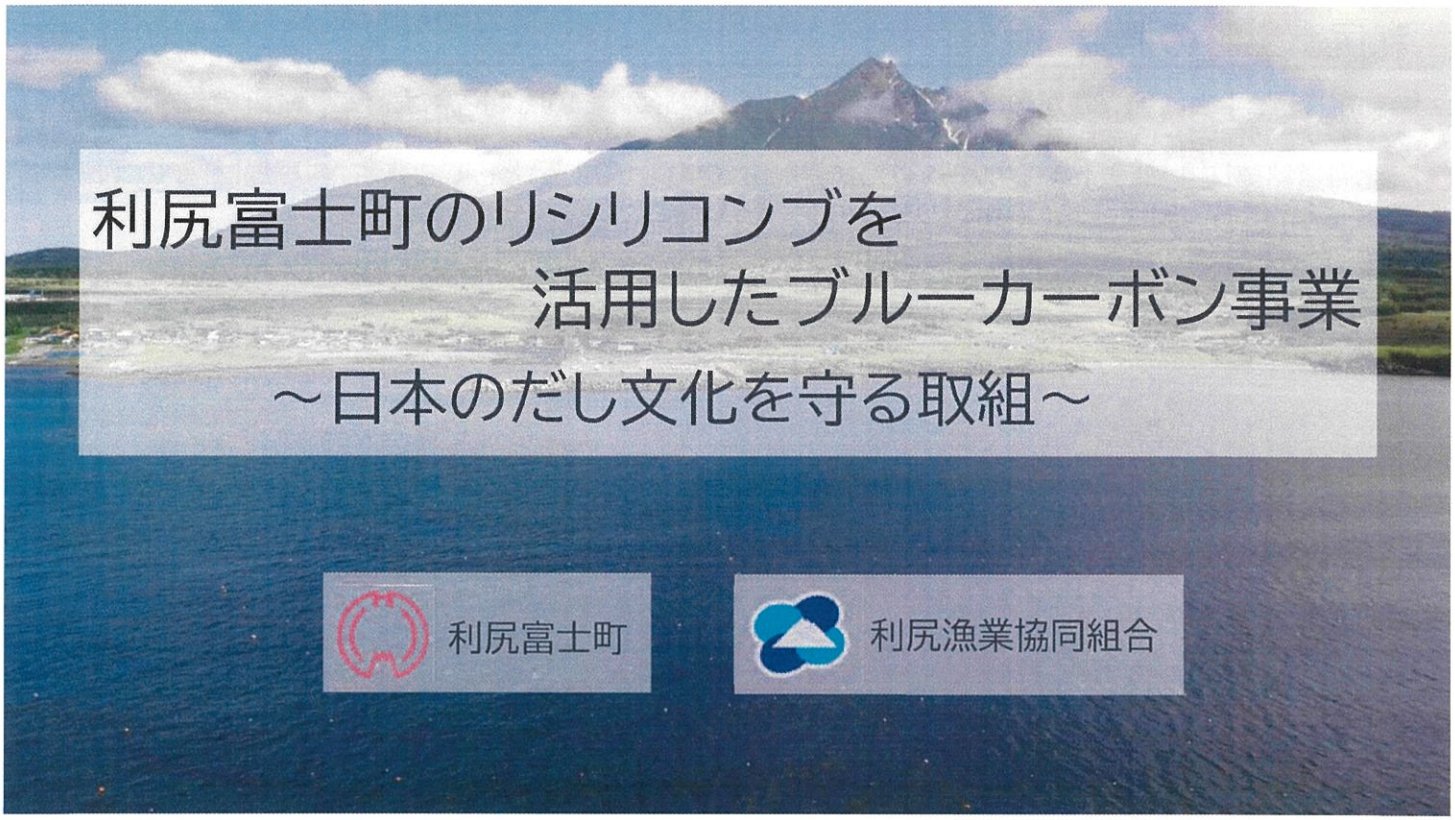
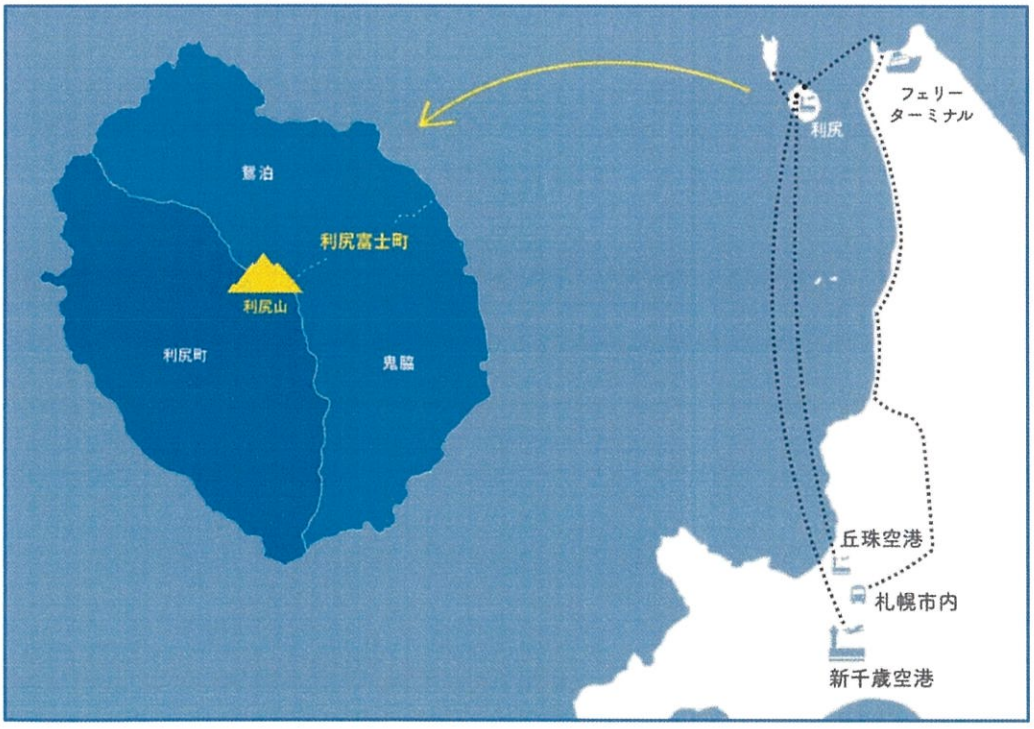
【資料３】



利尻富士町の位置



ーアクセスー

丘 珠 ー 利 尻
(約50分)

新千歳 ー 利 尻
(約50分)

稚 内 ー 利 尻
(約1時間40分)

札 幌 ー 稚 内
(約5時間50分)

利尻富士町の概要

利尻島は、中央に独立峰がそびえる日本海に浮かぶ円形の島です。利尻富士町と利尻町の二つの町からなり、ウニや昆布といった海の幸や、湧水など自然に恵まれた漁業と観光の島です。
北海道銘菓「白い恋人」のパッケージの山（利尻山：標高1,721m）としても有名。利尻島は「夢の浮島」とも呼ばれ、地名の由来はアイヌ語の「リイ・シリ」＝高い・島という意味です。

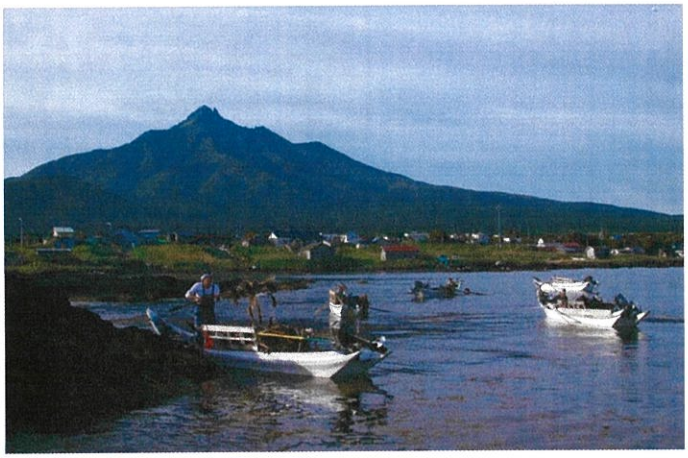
利尻島の全景

利尻昆布

エゾバフンウニ

昆布漁（天然昆布・養殖昆布）

【天然昆布漁】
天然昆布漁は一人乗りの「磯船」で海底の岩等から生えている昆布を採取する漁業。その日のうちに天日乾燥する必要があるため、波がなく、少し風がある快晴の日と気象条件が厳しく年間、数回しか採取できない。また、天然資源量も年変動が大きい。

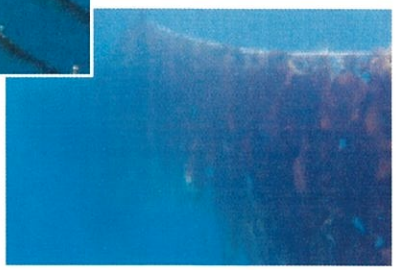


天然のコンブ場。
１年目昆布と２年目昆布が混生している。

昆布漁(天然昆昆布・養殖昆布)

【養殖昆布漁】
　養殖昆布漁は「漁業者が一から育てた自然栽培の昆布」で、昆布の種の段階から、漁業者が約2年かけて育てる。海中で1年間育てたコンブの中から2年目に再生した昆布をロープに巻き付け沖出しし、その後は雑草を除去したり、水深を調整し育てる。6月中旬頃、昆布の身入りが良くなってから陸揚し生産する。

←海面に浮かぶ
養殖リシリコンブ

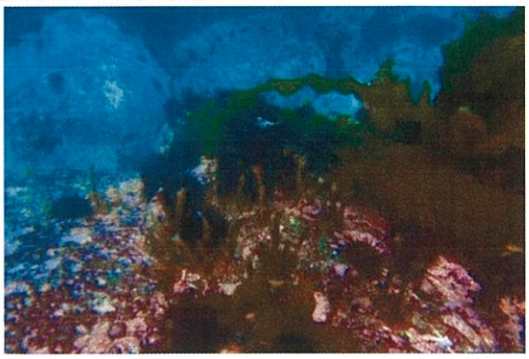


養殖昆布施設での→
2年目の成コンブ

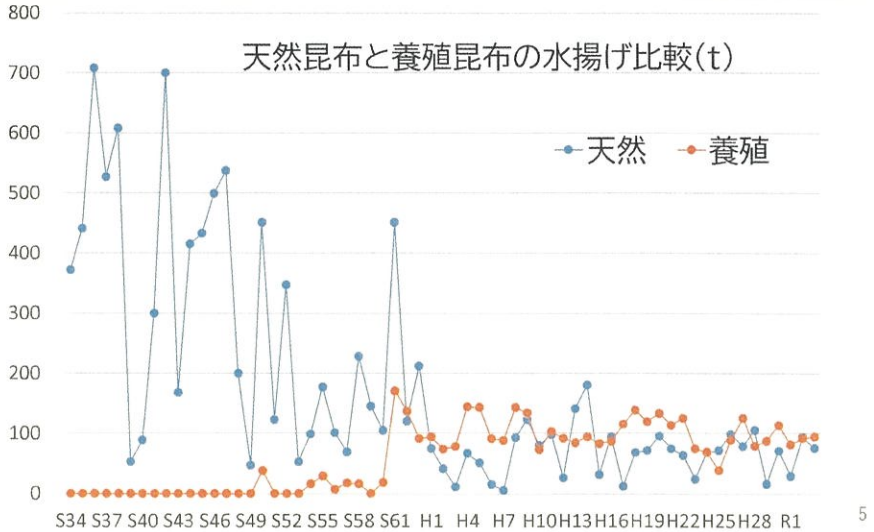
プロジェクトの背景

・平成29年に天然昆布が大減産
　⇒昆布が採れなくなるという危機感 ＝ 日本のだし文化の危機
　⇒気候変動対策の重要性を認識

【磯焼け海域】



キタムラサキウニがコンブ場を
侵食している状況。



プロジェクトの目的

リシリコンブの安定生産

①養殖コンブの安定的な生産
②磯焼け海域におけるコンブ藻場回復の取組
③昆布の魅力発信による付加価値向上・消費拡大
④ふるさと教育により活動を次世代へ引き継ぐ

【日本のだし文化を守る取組】

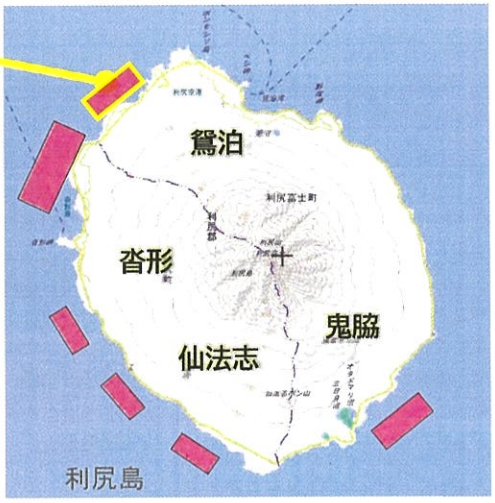
CO_2吸収源の維持・拡大

・地球温暖化抑制
→磯焼けの解消（藻場の保全）
→多様な生物の生息環境の保全
→漁業振興

クレジット活用により持続的な活動へ

①コンブ養殖におけるCO_2吸収源の創出（鴛泊地区）

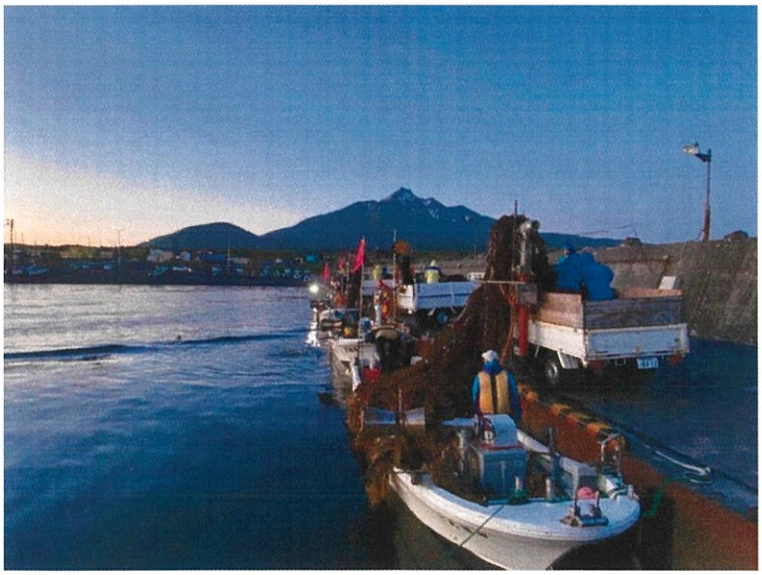
利尻富士町鴛泊字大磯地先水面
（リシリコンブ養殖区域）

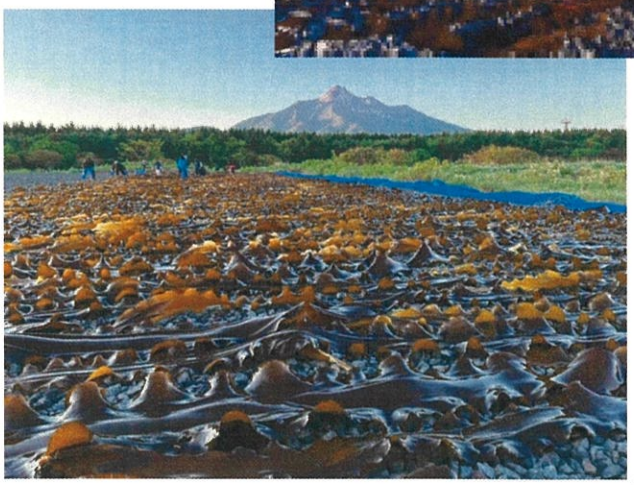


①コンブ養殖におけるCO_2吸収源の創出（鬼脇地区）

利尻富士町鬼脇地区水面
（リシリコンブ養殖区域）

①コンブ養殖におけるCO_2吸収源の創出

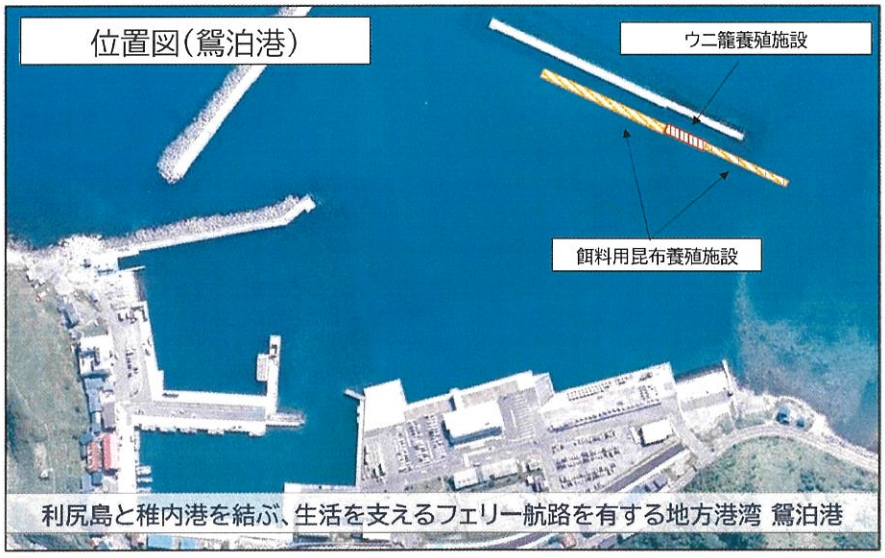


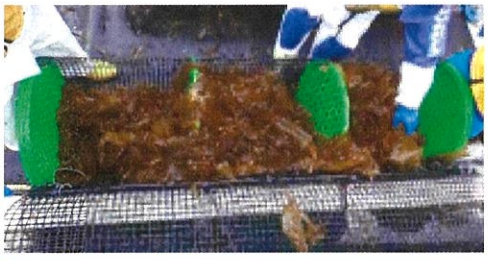


①コンブ養殖におけるCO_2吸収源の創出

①コンブ養殖におけるCO_2吸収源の創出

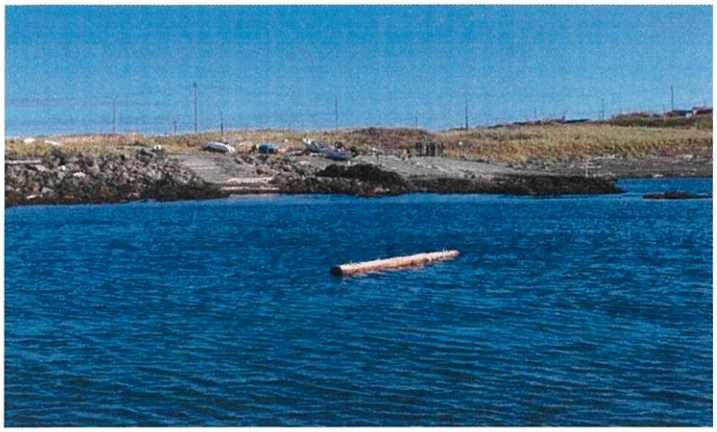
・鴛泊港の静穏水面を活用し令和3年3月よりウニの籠養殖試験を開始。
・餌料用として昆布養殖も実施。

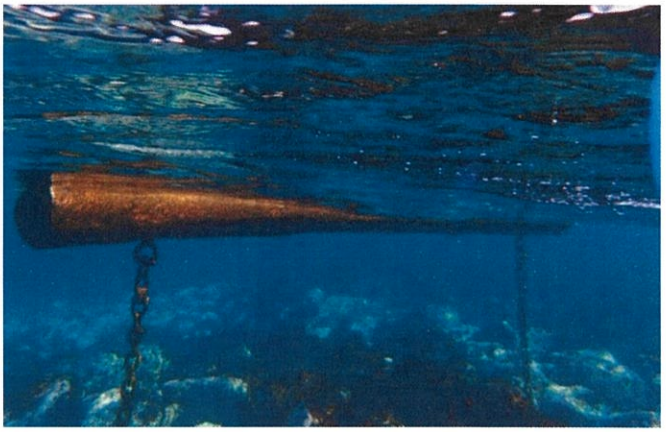




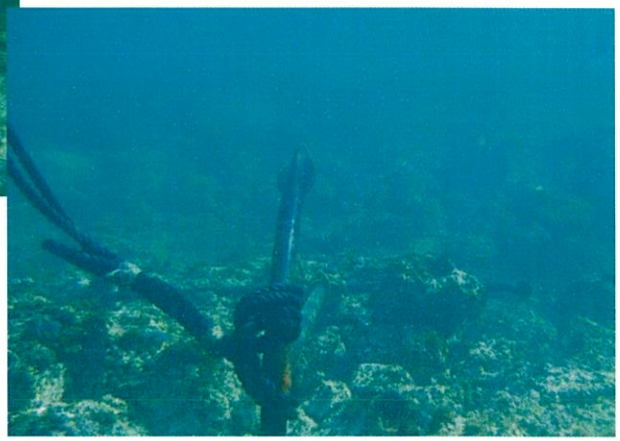
②磯焼け海域におけるコンブ藻場の保全

【チェーン振り事業】
　自然の波浪の力を利用した藻場回復の取組
　海面に浮かべた丸太にチェーンを垂下させ、自然の波浪の力によりチェーンが海底を擦ることで石灰藻を剥離・着底面に胞子を付着させる。





②磯焼け海域におけるコンブ藻場の保全



（チェーン振り実施海域）
　海底の状況